

## 山彦シンポジウムの予稿スタイル

山彦 太郎 (学部4年) †1

## The Proceedings Format for Yamabico Symposium

Taro YAMABICO (4th Year of the Bachelor's Program)<sup>†1</sup>

知能ロボット研究室 坪内グループ (BANDO)

[illegible]

**Keywords:** AAA, BBB, CCC

## 1. はじめに

山彦シンポジウムでは、内部資料として非公開の予稿集を作成します。発表者は、A4判の用紙に2ページから8ページの予稿原稿を作成してください。

## 2. 関連研究

【重要】学生の発表者は、必ず関連研究について記述してください。また、参考文献は必ず本文中で引用してください。

例：本稿は、文献 [1,2] を参考に作成しました。

### 3. 原稿スタイル

原稿を作成する際には、以下の条件を満たすようお願いいたします。このサンプルファイルでは、学術会議用 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2<sub>ε</sub> クラスファイル jsproceedings.cls [3] を使用しており、書式に関しては対策済みです。

- 1) 用紙サイズは A4 で、2 ページから 8 ページ。
- 2) 上下左右にそれぞれ 20 [mm] の余白を空ける。  
(偶数ページ・奇数ページに関わらず中央寄せ)
- 3) ページ番号は製本作業時に追記するので、提出原稿には  
ページ番号を記載しない。
- 4) 先頭のページの右上には、2020 年度 第 3 回 山彦シンポ  
ジウム [2020/2/17-2/19 オンライン開催] と記載する。

#### 4. L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2<sub>ε</sub> による論文執筆

学術会議用 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2<sub>ε</sub> クラスファイル jsproceedings.cls [3] の使用を推奨します。使用方法の詳細は、文献 [3] を参照してください。

論文タイトルを書く際には、jsproceedings.cls で定義した以下の独自のコマンドを用いてください。

- `\title{}` コマンド：日本語タイトル
- `\author{}` コマンド：日本語著者名
- `\authorrefmark{}` コマンド：著者の日本語所属マーク
- `\etitle{}` コマンド：英語タイトル
- `\eauthor{}` コマンド：英語著者名
- `\eauthorrefmark{}` コマンド：著者の英語所属マーク
- `\affiliation{}` コマンド：研究室の所属など

- \abstract{} コマンド：概要
- \keywords{} コマンド：キーワード
- \authorreftext{}{} コマンド：著者の日本語所属名
- \eauthorreftext{}{} コマンド：著者の英語所属名

## 5. 原稿の提出方法と期限

ウェブ上の予稿提出ページからアップロードをお願い致します。

2020 年度第 3 回山彦シンポジウム

<http://www.roboken.iit.tsukuba.ac.jp/event/Sympo/20-3/>

予稿の投稿メ切は2月10日(水)必着となっております。  
メ切直後に印刷作業を行ないますので、必ず間に合わせて頂  
くようお願い致します。

## 6. 2020 年度第 3 回山彦シンポジウムについて

- 1) 日時  
2020 年 2 月 17 日（水）～2 月 19 日（金）
- 2) 場所  
筑波大学 総合研究 b 棟 1 階 0110 公開講義室 〒305-0006  
茨城県つくば市天王台 1-1-1
- 3) 参加費  
予算が決まり次第、連絡致します。予稿集代、食費、宿泊  
費などを含みます。
- 4) 発表時間、発表件数（予定）  
発表時間は、1 件につき 15 分から 30 分程度。発表件数  
は 40 件程度を予定。
- 5) プログラム  
参加者が決まり次第、連絡致します。シンポジウム期間  
中、懇親会を開催致します。

## 参考文献

- [1] 山彦 太郎: “山彦シンボジウムの予稿スタイル”, 2006 年度第 1 回山彦シンボジウム予稿集, 2006.
- [2] 山彦 太郎, 山彦 次郎, et al.: “山彦シンボジウムにおける活動”, 日本ロボット学会誌, vol. 25, no. 1, pp. 100–110, 2007.
- [3] 原 祥亮, 坪内 孝司: “学術会議用 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2<sub>ε</sub> クラスファイル jsproceedings.cls を用いた論文執筆”, 2014 年度山彦セミナー資料, 2014.

<sup>†1</sup> 筑波大学 理工学群

<sup>‡1</sup> Undergraduate School of Science and Engineering,  
University of Tsukuba